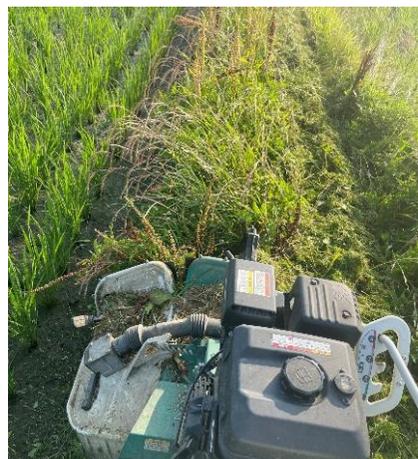
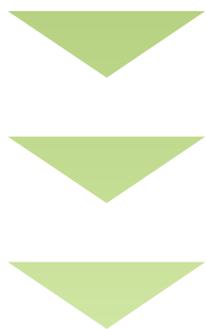


## みどり認定の取得内容【4つの取り組み】

- ③ 畦畔除草剤不使用とし、年3～4回の畦畔草刈りを徹底
- ④ 農薬は4成分以内とし、殺虫剤はネオニコチノイド系を使用しない



私たちの田んぼには様々な生き物たちが訪れ、  
そこで暮らす生き物達の生態系を守っています。



# みどり認定の取得内容【販売に関する取組】

全国の生協と契約販売を行っています。特に化学肥料・化学農薬不使用栽培タイプについては、独自の農産物ブランドとして販売を強化しています。また、販売先との産地交流会を通じて、消費者の理解の促進にも取り組んでいます。一部の販売先には「生産者が分かるお米」としてお届けしています。



## 環境への取組

消費者との勉強会や農作業体験などの交流会を通して、赤とんぼの生産活動を伝えています。各地域の有機農業推進協議会に参加し、学校給食にお米や平飼いたまごの供給するほか、講話を行うなど、食育活動にも力を入れています。

また、こども食堂等への食材提供活動にも参加させていただいています。



# みどり認定取得後の新事業

みどり認定を取得したこともあり、令和7年3月に「国内肥料資源活用総合支援事業」に採択されました。

自然(資源)循環型農業の中心となる堆肥の利用拡大を目的に、会社敷地内に堆肥ストックヤードを新設。また、利用者の広域化に対応するために、会社から約26km離れた上山市の牧場内へ土間コンクリート整備を行いました。2箇所ストックヤードで地元の畜産農家と協力し、新たに牛ふんと鶏ふんを原料とした堆肥の製造を行っています。



赤とんぼストックヤード



上山ストックヤード

# みどり認定取得後の新事業

2箇所のストックヤードでは、地域の作物にあった良質な堆肥を生産するために、堆肥の勉強会を2回開催し、水稻の生育調査を行いました。

## 《生育調査結果》

堆肥の施用は、長期間の施用圃場と無施用圃場では収量・食味に違いがあり、堆肥の施用の方が良い結果となりました。

その結果を会員農家に伝え、堆肥の利用を促し、環境負荷の少ない資源循環型農業を広めていきたいです。また、販売先にも勉強会等を通して伝え、赤とんぼのお米により興味を持ってもらえるようにしていきたいです。

## 生育測定結果

測定項目	実験区 (堆肥あり)	対照区 (堆肥なし)
草丈	94.2cm	89.4cm
茎数	30.4本/株	26本/株
10a当たりの収量	8.5俵	7.5俵

## みどり法のグループ認定を受けてみて

- ▶ 赤とんぼと会員農家が行う生産活動をより分かりやすい形にすることができました。
- ▶ グループ認定を受けたことで、ストックヤードという新たなチャレンジをすることができ、生産者・赤とんぼ共に活気が出てきました。
- ▶ 赤とんぼの活動を理解し、協力してくれる仲間が増えました。

今後も資源循環型農業を継続し、拡大していくためにも、今の繋がりをより強いものにしていくことが大事だと考えています。そのためには、赤とんぼが作る堆肥を地域で作られている飼料用米、栽培が増えつつある飼料用作物、山形で栽培が盛んな果物などに利用してもらいたいと思っています。地域の農家と繋がりながら、楽しく、元気に農業ができるところになればと思っています。



**ご清聴ありがとうございました**